

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	九州大学
整理番号	A②-7
事 業 名	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
コメント 本事業は、アジア地域の持続的な発展を図ることを目的に、都市・建築環境問題を解決するための施策・実践に向けて必要とされる、俯瞰力・実践力・国際力を兼備した専門家を養成することを目指している。 中国同済大学、韓国釜山大学と協働で実施したサマースクール、ダブル・ディグリー・プログラム、国際ワークショップや海外インターンシップの参加を通じて人材の育成が図られた。短期のサマースクールにおいては単位の相互認定を行い、キャンパスアジア・シンポジウムでは他大学から建築環境問題に積極的に取り組む教員を招へいし、情報共有を進めるといった積極的な交流が進められた。学生の語学力に関しては、当初計画の外国語力基準を満たす学生数には届いていないものの、英語でのプレゼンテーションの実施、他大学の学生と討論や提案を英語で行う機会を多く設けたサマースクールの実施といった、語学力向上に向けた様々な取組がなされている。この他にも、アジアの都市問題に関する広範な知識と、国際的な場でのコミュニケーション力を身につけさせており、これらの多様な交流プログラムを通じて目的とする人材育成が進められたことは高く評価できる。本事業を支える3大学の教育運営委員会の定期的な開催や、本事業推進のための専任教員の配置を行っており、サポート体制も充実している。 一方、本事業に参加した学生数は、全体として計画数を上回るものの、その内訳を見ると短期交流が中心となっており、単位取得を伴う3か月以上の長期派遣の学生数はわずか5名と、コロナ禍の影響を除いても計画値には全く届いていない。更に、本事業の目的が、環境問題という本来は長期的な課題であるにも関わらず、今後の展開に関する検討状況が明確に示されていないことから、本事業の継続性に関して、大学全体の取組として対応することが望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	